

# 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果による達成度について

## 1. 調査概要

### (1) 調査目的

本町では、高齢者福祉の一層の充実と介護保険制度の円滑な実施に向け、高齢者福祉計画及び介護保険事業計画の見直しを行います。

本調査では、身近な内容で、高齢者の状態や自立した生活を過ごす上での課題、今後の意向等をより的確に把握することを目的としました。

### (2) 調査の実施について

対象者	令和4年12月現在、川西町内にお住まいの65歳以上の方 (要介護1～5の方を除く)
実施期間	令和5年1月5日(木)～令和5年1月27日(金)
実施方法	郵送配布、郵送回収、WEBアンケートシステムでの回答

### (3) 有効回答件数及び回答率

配布数	回収数	回収率	有効回答数	有効回答率
2,581件	1,915件 (うちWEB回答27件)	74.1%	1,832件	70.9%

### (4) 留意点

分析結果を見る際の留意点は以下の通りとなっている。

1. 「n」は「number」の略で、比率算出の母数。
2. 単数回答の場合、本文および図表の数字に関しては、すべて小数点第2位以下を四捨五入し、小数点第1位までを表記。このため、百分率の合計が100.0%とならない場合がある。  
また、リスク判定該当者割合において、性・年齢の内訳の合計と全体の割合が一致しない場合がある。
3. 複数回答の場合、図中にMA (Multiple Answer = いくつでも)、3LA (3 Limited Answer = 3つまで)と記載している。また、不明(無回答)はグラフ・表から除いている場合がある。
4. 各種リスクの非該当には判定不能も含む。

## 2. 分析の手法

「第8期介護保険事業計画における介護予防等の「取組と目標」設定の手引き」（令和元年10月／厚生労働省）の内容に沿って、主に第8期計画策定時の調査（以下、「前回調査」という）結果と第9期計画策定時の調査（以下、「今回調査」という）結果を比較しながら、介護予防・日常生活圏域ニーズ調査（以下、「ニーズ調査」という）結果を活用した指標設定を検討することとします。

## 3. 分析の観点

ニーズ調査結果から得られるデータを用いて指標を設定することにより、計画で設定する目標の達成度をはかるにはどうすればよいかという観点から分析を行います。

ここでは主に、第8期介護保険事業計画策定時点において設定したアウトカム指標の結果に加えて、調査結果から得られた特徴について掲載します。

#### 4. 第8期計画におけるアウトカム指標の評価

単位：%

指標（ニーズ調査結果）	区分	第7期 令和元年度 (2019)	第8期 令和4年度 (2022)	評価 <sup>※1</sup>
1 自分自身の健康状態【「とてもよい」「まあよい」の割合】	実績値	78.2	77.2	→
	目標値	-	80.0	
2 自分がどの程度幸せか【「高得点」点数8～10点の割合】	実績値	48.8	44.4	↘
	目標値	-	50.0	
3 外出回数が減っているか【「減っていない」の割合】	実績値	42.5	30.1	↘ <sup>※3</sup>
	目標値	-	45.0	
4 スポーツ関係のグループやクラブに参加する高齢者【週1回以上の割合】	実績値	19.3	14.8	↘
	目標値	-	20.0	
5 ボランティア等に参加する高齢者【週1回以上の割合】	実績値	9.8	5.7	↘
	目標値	-	10.0	
6 住民主体の通いの場に参加する高齢者【全体の割合】	実績値	6.5	※2	※2
	目標値	-	8.0	
7 サロン活動に参加する高齢者【全体の割合】	実績値	7.7	※2	※2
	目標値	-	10.0	
8 運動器の機能低下リスク高齢者【全体の割合】	実績値	15.9	16.4	→
	目標値	-	14.0	
9 転倒リスク高齢者【全体の割合】	実績値	30.5	36.3	↘
	目標値	-	28.0	
10 咀嚼機能の低下リスク高齢者の割合【全体の割合】	実績値	34.0	35.9	→
	目標値	-	32.0	
11 栄養改善リスク高齢者の割合【全体の割合】	実績値	6.4	7.9	→
	目標値	-	5.0	
12 認知機能の低下リスク高齢者の割合【全体の割合】	実績値	45.4	45.4	→
	目標値	-	42.0	
13 手段的自立度（IADL）【「低い」の割合】	実績値	5.8	6.6	→
	目標値	-	5.0	
14 認知症に関する相談窓口を知っているか【全体の割合】	実績値	27.0	24.0	↘
	目標値	-	30.0	

※1 凡例… ↗：増加または改善 →：維持 ↘：低下または悪化  
第7期実績値と比べて第8期実績値が±2.5ポイント以内にある場合は「維持」とした。

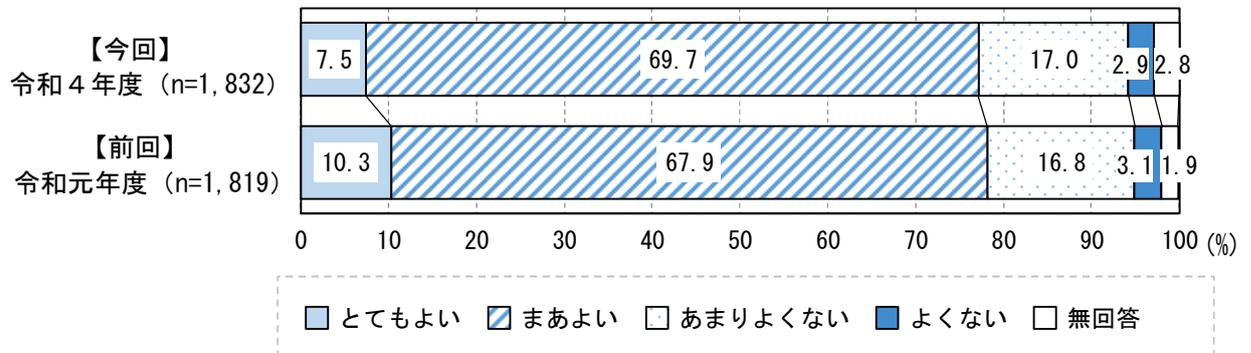
※2 確認中。

※3 第8期計画期間における感染症のまん延等による生活様式の変化の影響を色濃く受けている。

## 5. 分析結果

### (1) 自分自身の健康状態【「とてもよい」「まあよい」の割合】

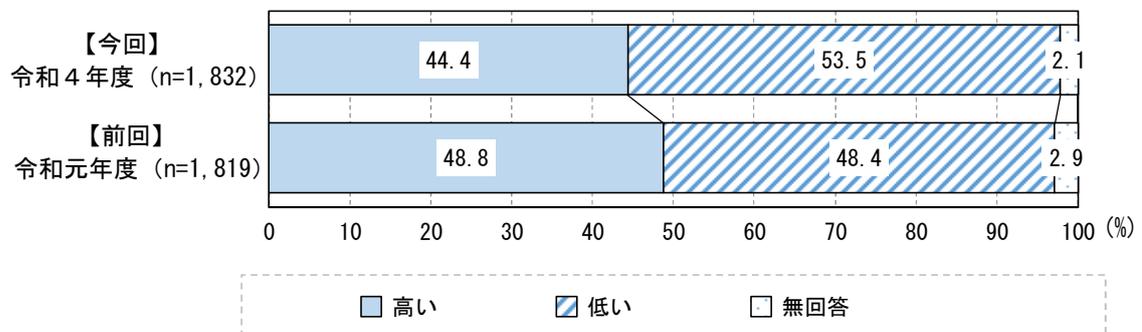
■ 「自分自身の健康状態をどう思うか」の割合（前回：問7（1）、今回：問7（1））



「自分自身の健康状態をどう思うか」の割合を見ると、前回調査と今回調査ではほとんど変わらない結果となりましたが、「とてもよい」+「まあよい」の割合が1.0%の減少となりました。

### (2) 自分がどの程度幸せか【「高得点」点数8～10点の割合】

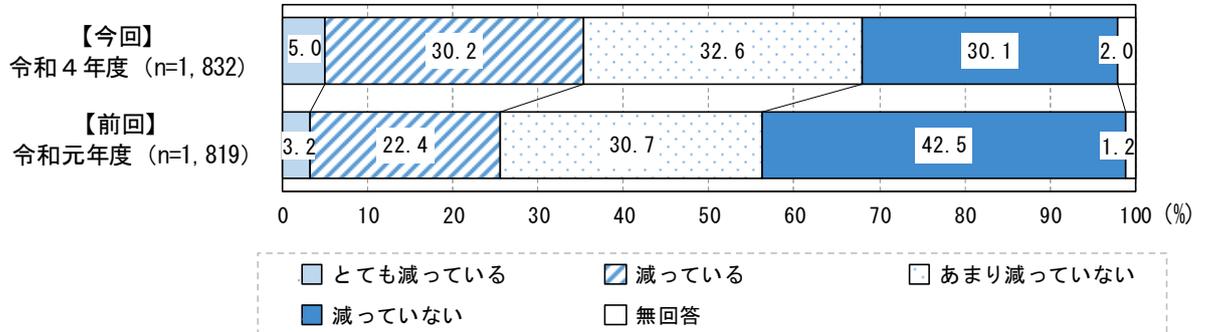
■ 「自分がどの程度幸せと思うか」の割合（前回：問7（2）、今回：問7（2））



「自分がどの程度幸せと思うか」の割合を見ると、前回調査より今回調査は「高い」の割合は4.4%の減少となりました。

### (3) 外出回数が減っているか【「減っていない」の割合】

■「昨年と比べて外出の回数が減っているか」の割合（前回：問2（7）、今回：問2（7））

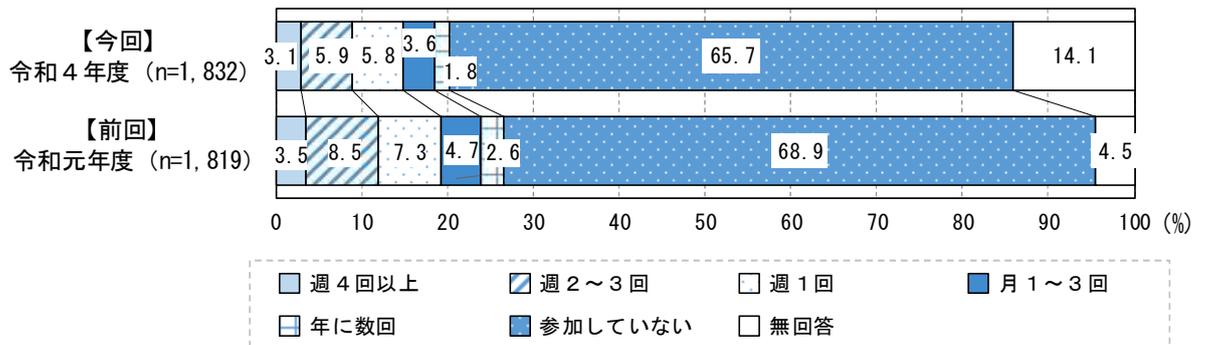


「昨年と比べて外出の回数が減っているか」の割合を見ると、前回調査より今回調査は「減っていない」は12.4%の減少となりました。また、「とても減っている」では1.8%、「減っている」では7.8%の増加となりました。

### (4) スポーツ関係のグループやクラブに参加する高齢者【週1回以上の割合】

■スポーツ関係のグループやクラブに参加する高齢者の割合

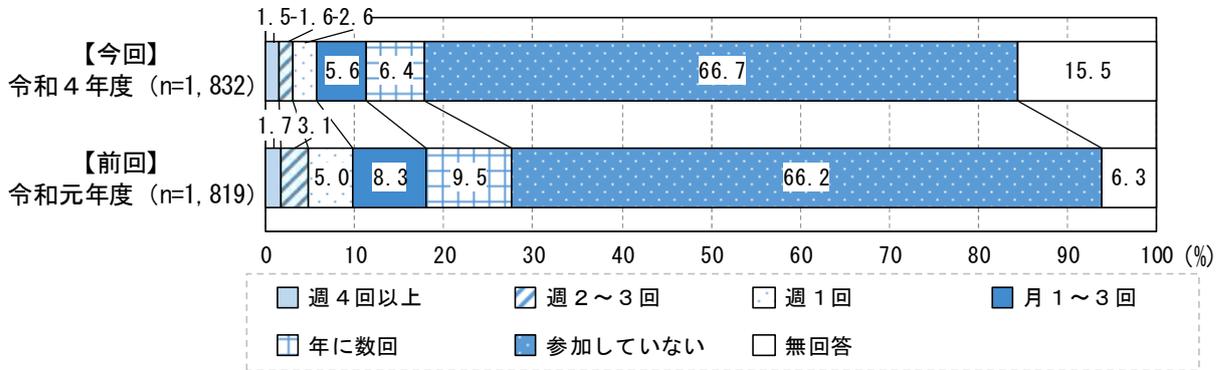
（前回：問5（1）②、今回：問5（1）②）



スポーツ関係のグループやクラブに参加する高齢者の割合を見ると、「週1回以上」では、前回調査より今回調査は4.5%、「年に数回以上」では6.4%の減少となりました。

(5) ボランティア等に参加する高齢者【週1回以上の割合】

■ ボランティア等に参加している高齢者の割合（前回：問5（1）①、今回：問5（1）①）

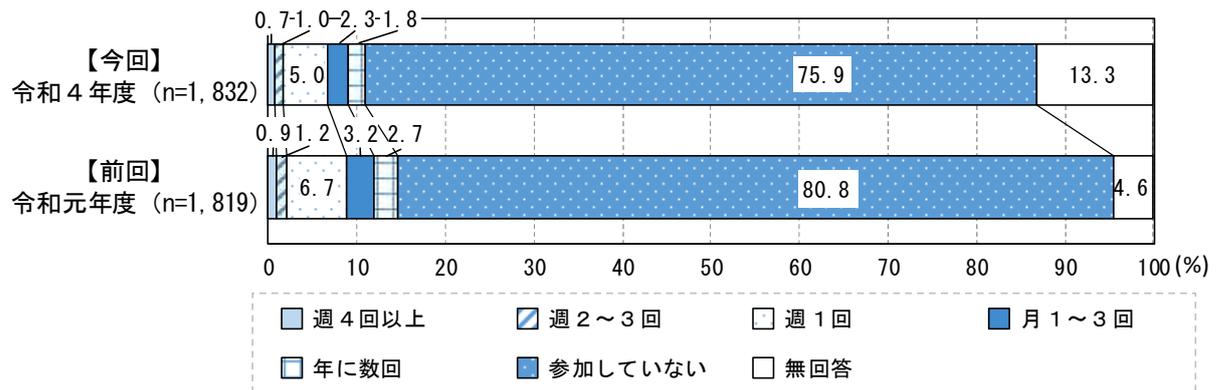


ボランティア等に参加している割合を見ると、「週1回以上」では、前回調査より今回調査は4.1%の減少となりました。

(6) (7) (いきいき百歳体操・地域のサロンなどの) 介護予防のための通いの場に参加する高齢者の割合【週1回以上の割合】

※アウトカム指標6、7に関連する参考値として掲載

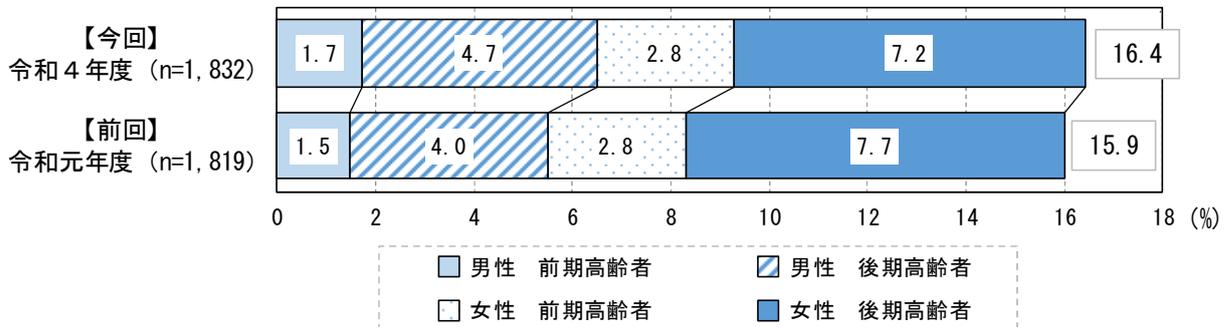
■ (いきいき百歳体操・地域のサロンなどの) 介護予防のための通いの場に参加する高齢者の割合（前回：問5（1）⑤、今回：問5（1）⑤）



(いきいき百歳体操・地域のサロンなどの) 介護予防のための通いの場に参加する高齢者の割合を見ると、「週1回以上」では、前回調査より今回調査は2.1%、「年に数回以上」では3.9%の減少となりました。

## (8) 運動器の機能低下リスク高齢者【全体の割合】

### ■運動器の機能低下リスク高齢者の割合（リスク判定<sup>(※)</sup>結果）



運動器の機能低下リスク高齢者の割合を見ると、全体では、前回調査より今回調査は0.5%の増加となりました。

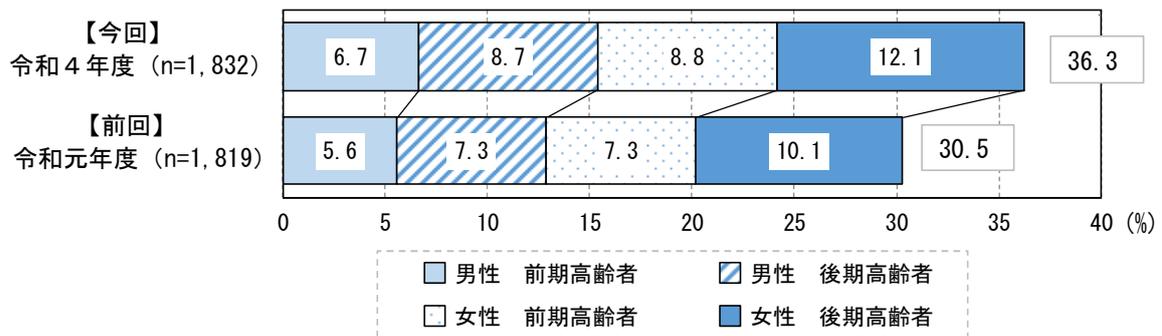
※「リスク判定」について

ここでは、地域包括ケア「見える化」システムに登録されている川西町のリスク判定結果を引用しています。リスク高齢者の割合が低いほど良い状況であると判断します。

(以下のリスク判定についても同様)

## (9) 転倒リスク高齢者【全体の割合】

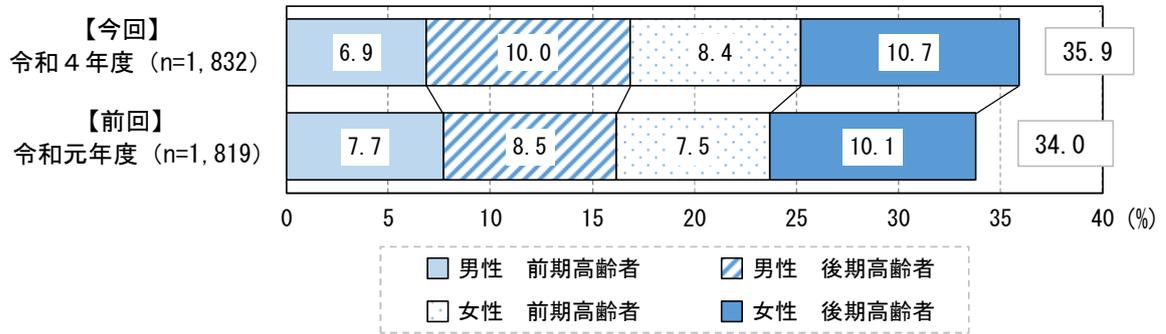
### ■転倒リスク高齢者の割合（リスク判定結果）



転倒リスク高齢者の割合を見ると、全体では、前回調査より今回調査は5.8%の増加となりました。

(10) 咀嚼機能の低下リスク高齢者【全体の割合】

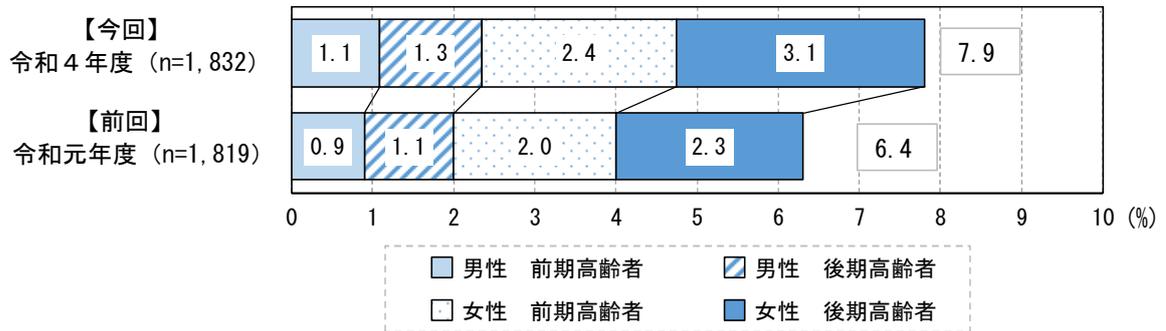
■咀嚼機能の低下リスク高齢者の割合（リスク判定結果）



咀嚼機能の低下リスク高齢者の割合を見ると、全体では、前回調査より今回調査は2.1%の増加となりました。

(11) 栄養改善リスク高齢者の割合【全体の割合】

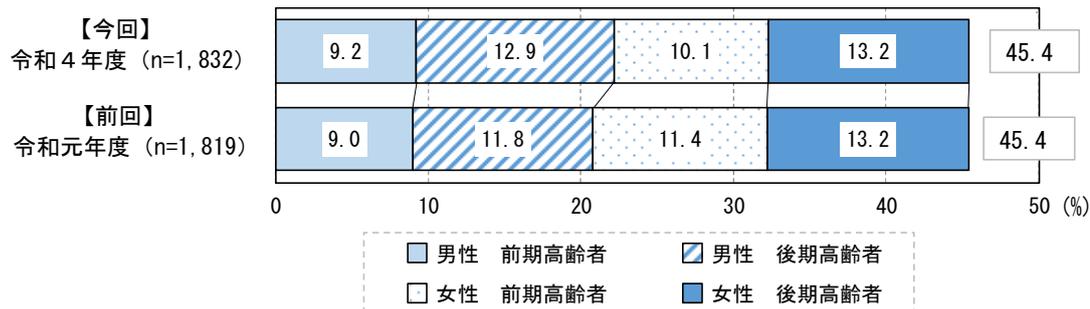
■栄養改善リスク高齢者の割合（リスク判定結果）



栄養改善リスク高齢者の割合を見ると、全体では、前回調査より今回調査は1.5%の増加となりました。

## (12) 認知機能の低下リスク高齢者の割合【全体の割合】

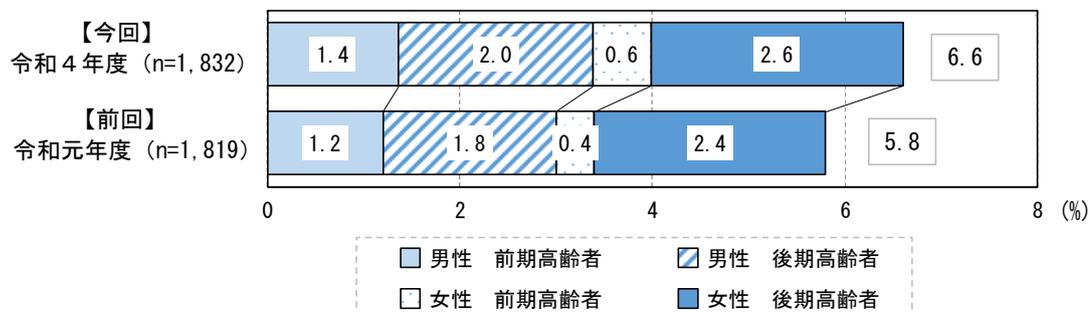
### ■ 認知機能の低下リスク高齢者の割合（リスク判定結果）



認知機能の低下リスク高齢者の割合を見ると、全体では、前回調査と同じ割合となりました。

## (13) 手段的自立度（IADL）【「低い」の割合】

### ■ 手段的自立度（IADL）が「低い」高齢者の割合（判定結果）

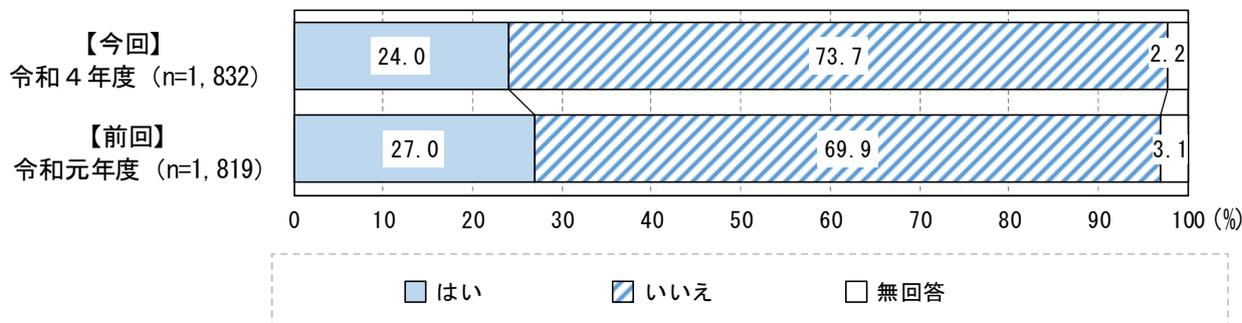


手段的自立度（IADL）が「低い」高齢者の割合を見ると、全体では、前回調査より今回調査は0.8%の増加となりました。

## (14) 認知症に関する相談窓口を知っているか【全体の割合】

### ■ 認知症に関する相談窓口を知っている高齢者の割合

（前回：問8（2）、今回：問8（2））



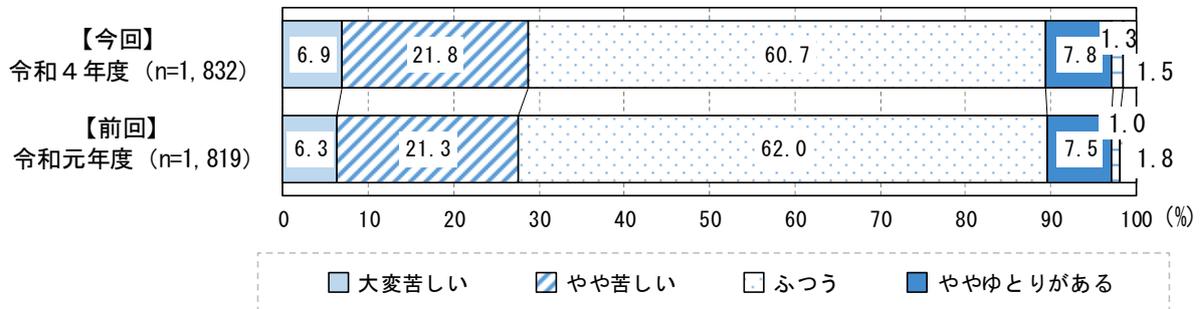
認知症に関する相談窓口を知っている割合を見ると、前回調査より今回調査は3.0%の減少となりました。

## その他、特徴のある項目・関連のある項目について

### ①主観的経済観が向上した高齢者の割合

#### ■「暮らしの状況を経済的にみて、どう感じるか」の割合

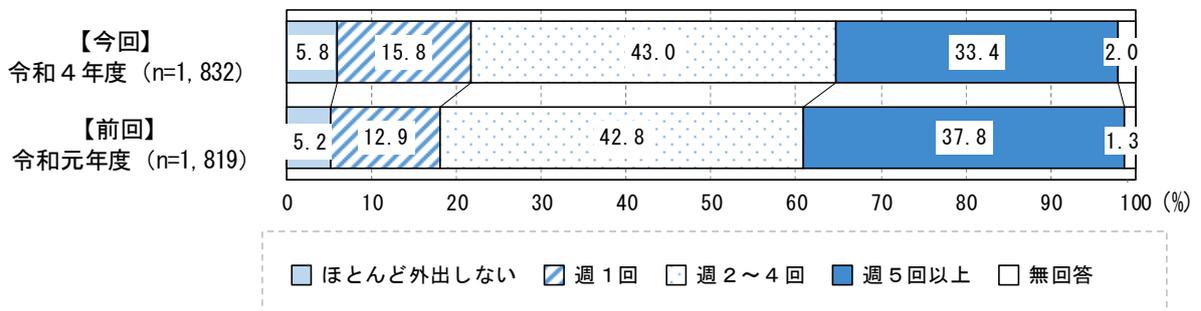
(前回：問1(3)、今回：問1(3))



「主観的経済観」を見ると、「大変苦しい」+「やや苦しい」では、前回調査より今回調査は1.1%の増加となっています。

### ②週1回以上外出している高齢者の割合

#### ■「週に1回以上は外出しているか」の割合 (前回：問2(6)、今回：問2(6))

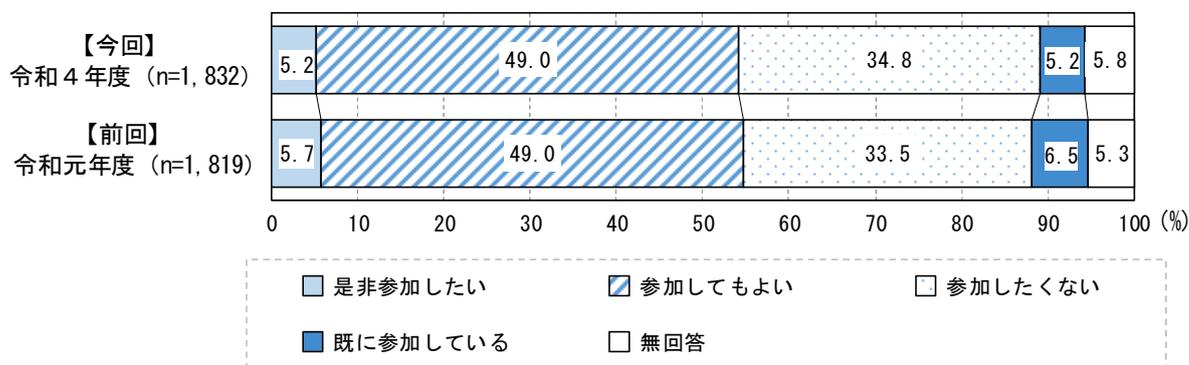


「週に1回以上は外出しているか」の割合を見ると、全体では前回調査より今回調査は「週1回以上」では1.3%の減少となりました。しかし「週1回」では2.9%、「週2~4回」においても0.2%の増加となっています。

### ③地域づくりの活動への参加意向のある高齢者の割合

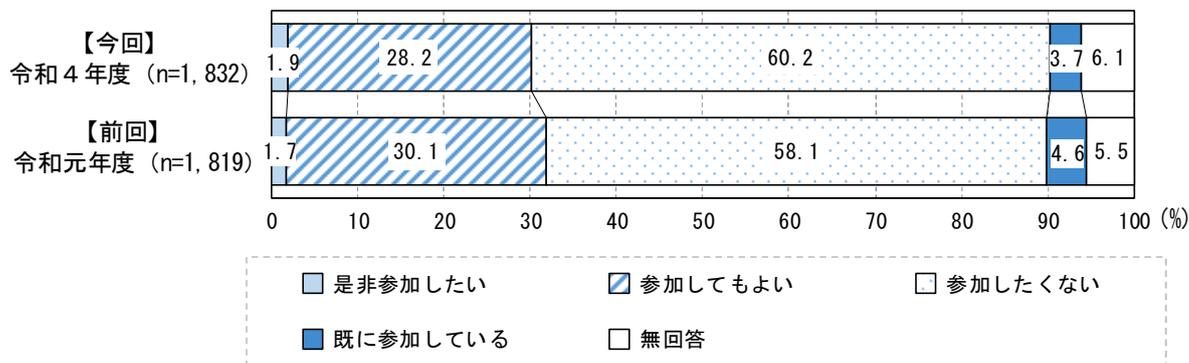
#### ■地域づくりへ参加者としての参加意向のある高齢者の割合

(前回：問5(2)、今回：問5(2))



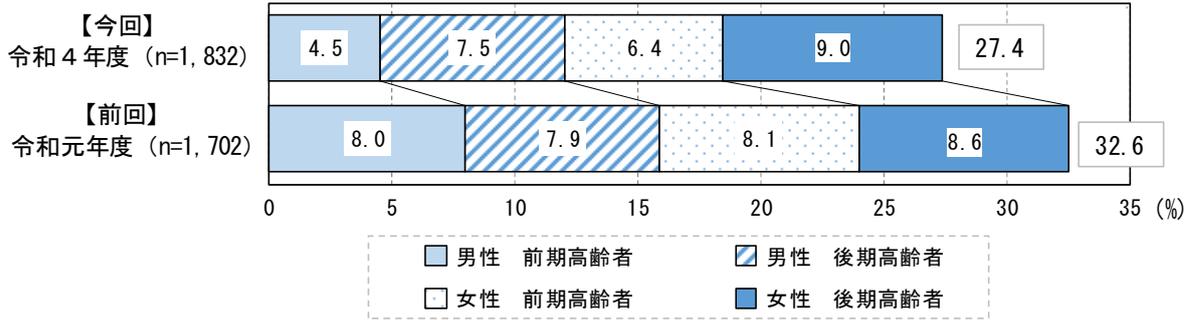
#### ■地域づくりへの企画・運営（お世話役）としての参加意向のある高齢者の割合

(前回：問5(3)、今回：問5(3))



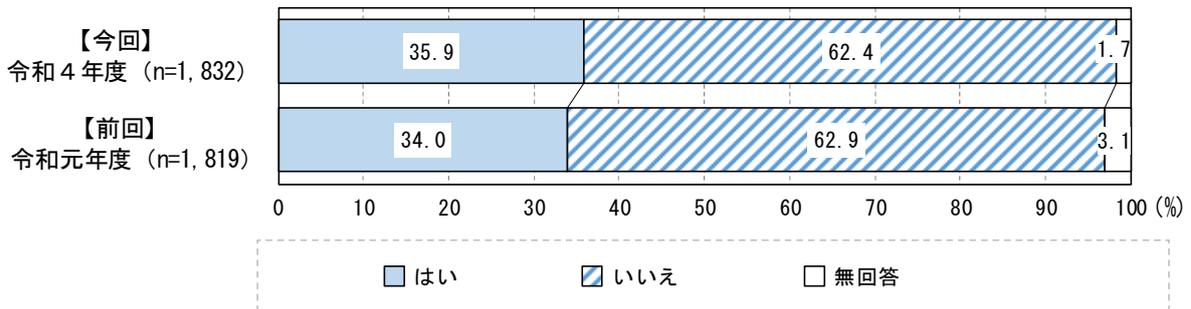
「既に参加している」を含む「是非参加したい」+「参加してもよい」の割合は、参加者では1.8%、お世話役としては2.6%と、ともに前回調査より今回調査はやや減少しているものの、お世話役として「是非参加したい」割合は0.2%とわずかに増加しています。

④口腔機能に関する項目について



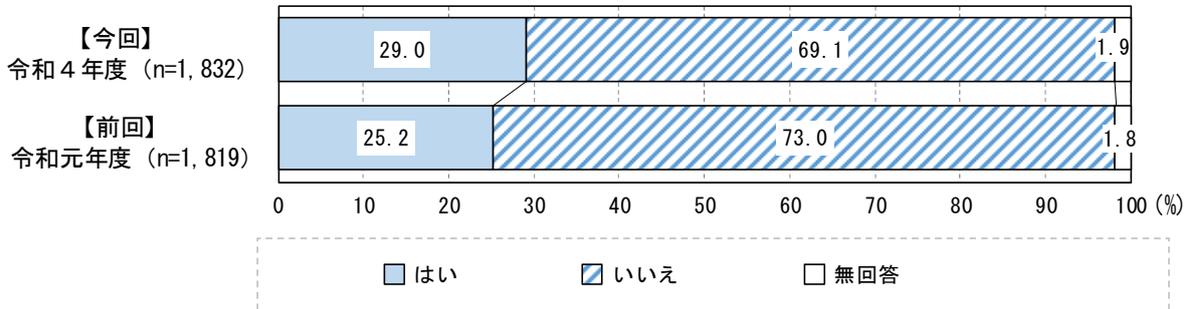
■「半年前に比べて固いものが食べにくくなったか」の割合

(前回：問3(2)、今回：問3(2))



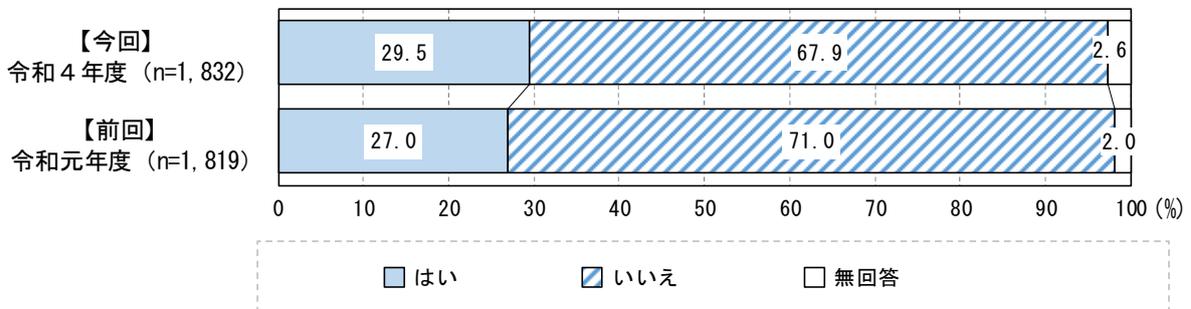
■「お茶や汁物等でむせることがあるか」の割合

(前回：問3(3)、今回：問3(3))



■「口の渇きが気になるか」の割合

(前回：問3(4)、今回：問3(4))

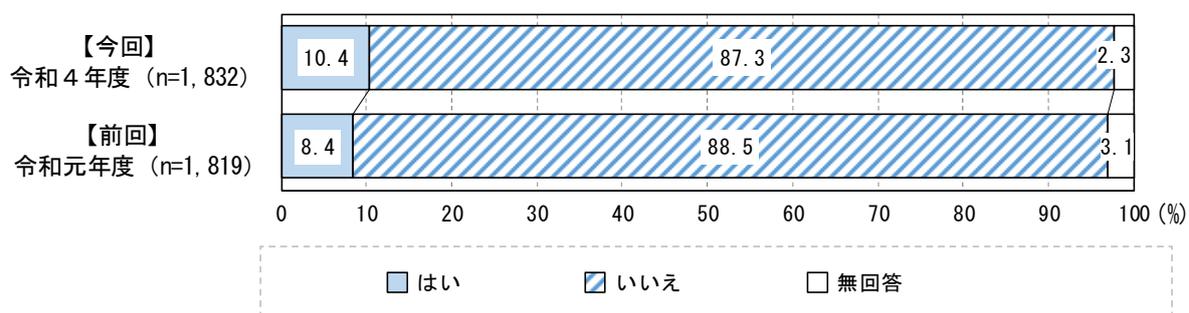


口腔機能に関するそれぞれの項目を見ると、前回調査より今回調査は半年前に比べて固いものが食べにくくなった割合が1.9%、お茶や汁物等でむせることがある割合が3.8%、口の渇きが気になる割合が2.5%の増加となっています。

⑤認知症状に関する項目について

■「認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいるか」の割合

(前回：問8(1)、今回：問8(1))



自身や家族に認知症の症状がある人の割合を見ると、前回調査より今回調査は2.0%増加しています。

## 6. 介護予防・日常生活圏域ニーズ調査結果によるアウトカム指標の達成度のまとめ

- ◇ 第8期介護保険事業計画策定時のアウトカム指標の達成度を見ると、全ての項目で目標値は達成されませんでした。第8期計画期間においては新型コロナウイルス感染症（COVID-19）による生活様式の変化などによって、特に外出に関係する項目で大きな影響あったことが予想されます。今後ポストコロナの日常生活支援が重要であり、外出支援や運動機能向上のための取組を進めていき、コロナフレイルを予防していく取組が重要と考えられます。
- ◇ 【(2) 自分がどの程度幸せか】と相関関係にあると考えられる主観的経済観を見ると、「大変苦しい」+「やや苦しい」では、前回調査より今回調査は1.1%の増加となっており、経済的に高齢者負担の少ない地域づくりが、今後、主観的幸福感を引き上げる要因となると考えられます。
- ◇ 日々の外出回数や地域活動・ボランティアへの参加に関わる項目として、「週に1回以上は外出しているか」の割合を見ると、全体では前回調査より今回調査は「週1回以上」は1.3%の減少となりました。しかし「週1回」では2.9%、「週2～4回」においても0.2%の増加となっていることから、新型コロナウイルス感染症（COVID-19）の影響による生活様式の変化が見て取れます。

また、「既に参加している」を含む「是非参加したい」+「参加してもよい」の割合は、ともに前回調査より今回調査ではやや減少しているものの、お世話役として「是非参加したい」割合は0.2%とわずかに増加しています。加えて、参加者として「参加してもよい」と回答している高齢者の割合も横ばいとなっていることから、「週1回以上外出している高齢者の割合」の結果も踏まえ、生活様式の変化により、外出機会が減少しているものの、地域活動等やボランティアへの参加意向に大きな変化はないことが伺えます。
- ◇ 【(10) 咀嚼機能の低下リスク高齢者】と関連して、嚥下機能、口渇に関する質問の回答結果と合わせた「口腔機能低下リスク」について見ると、リスク該当者の割合は減少している一方で、各機能別の回答状況を見ると、それぞれ「はい」の割合が増加しています。オーラルフレイルに関する情報の周知や、介護予防教室等への専門職の派遣など、ポピュレーションアプローチを進めることが重要と考えられます。
- ◇ 【(14) 認知症に関する相談窓口を知っているか】に関わる項目として、自身や家族に認知症の症状がある割合について、前回調査より今回調査では「はい」の割合が2.0%増加していることがわかります。認知症に関する相談窓口の周知割合は減少しており、今後、認知症の症状がある方の割合の増加も考えられるため、相談窓口に限らない周知啓発が重要です。